

◆牛舎の暑熱対策

暑い季節は、日射病や熱射病が発生します。牛舎・生体内部の暑さのために起こる熱射病は、肥育牛に多く発生します。畜舎の構造上、風通しが悪かったり、アンモニアが発生しやすかったりすると、密飼いの畜舎は要注意です。

症状は脳炎、起立困難等が主症状となり、ヘモフィルス症等との類症鑑別が必要となりますが、獣医師への連絡も早めをお願いします。

予防法は原因の除去が大切ですが、症状が出始めたら後頭部の冷却や重曹の内服も効果があります。牛体のブラッシングによりフケを除去し、新陳代謝を高めるのもひとつの方法です。

畜舎西側のブロック壁が、いつまでも熱を保つため熱射病になりやすいので、西側につる性植物の植え込みを作り、日陰を作って副射熱を下げるのも効果があがります。